



【特集】<sup>②</sup>

## 新学長・副学長 就任にあたっての抱負を語る

- ④ 大学生生活をバネに更なる飛躍を!
- ⑥ キャンパススポット「岐経祭2012」
- ⑦ キャンパススポット「ゼミナール大会」
- ⑧ 輝け!アスリートたち
- ⑩ キャリア支援課だより
- ⑫ 教育最前線
- ⑬ 研究室だより
- ⑭ キャンパス彩々
- ⑯ 教育実習報告会／福祉実習報告会／  
教職員人事



座談会

# 新学長・副学長が目指す これからの岐阜経済大学

谷江幸雄前学長の任期満了に伴い、2013年2月1日から経済学部石原健一教授が新学長として就任し、新たに導入された副学長制度により経営学部中村共一教授と同学部竹内治彦教授の2名が選任され新しい体制の岐阜経済大学が始動しました。

少子化等の影響により、私立大学をめぐる環境は大変厳しい状況にあるなか、どのような大学づくりを目指すのか、そのために取り組む政策や教育方法などについて語っていただきました。



GIFU KEIZAI UNIVERSITY SPECIAL TABLE TALK

## 地域の知の拠点として

どのような大学づくりを目指しますか——

**石原** 本学の建学の精神の一つである「地域との共生を中心に政策立案していきたい」と思っています。まず、地域の「コミュニティセンター」(Community Center)としての機能を強化していきます。教育については、建学の精神「全人教育」に基づき、専門教育だけでなく、教養教育にも力を入れていき、人間性豊かな学生を育て、地域に輩出していきます。

**中村** 石原学長がおっしゃったように、大学の社会的有用性を高める必要があります。本学は地方の私学なので、地域をへんとして、「コミュニティ」の身を豊かに受け止めながら、COCCを育てていけるかが、大学の将来に関わってくるのではないかと思います。

**竹内** 地域連携担当として副学長の指名を受けましたので、COCCとしての役割を担うためです。部の教員や学生が関わっているのではなく、大学全体が地域に向けて関わっていくことが大切です。

## アクティブ・ラーニングの拡大

今後の具体的な政策や教育方法などを教えてください——

**石原** 地方私大の経営難はメディアでも取り上げられ、4割の私大が定員割れと言われています。財政的制約はあっても、本学は初年次教育やキャリア教育に重点をおいていきます。就職を考えたキャリア教育は大切です。基礎学力をつけるうえで、初年次教育にも力を入れていきます。1つは、基礎演習の共通化です。基礎演習を「学部共通化」、その分、教養教育や専門教育に力を振り分けることで、今まで以上に教養・専門教育に力を入れていきます。2つめは国際化です。本学としても国際化に力を入れます。3つめは、課外活動です。強化・準強化指定クラブを中心にスポーツに力を入れます。

**中村** 学生募集担当副学長という立場から見ると、入口段階だけでなく、出口においても学生全員が100%の満足感を持って社会へ巣立できるように、将来を考えた教育を行っていく必要があります。その実績が、本学への魅力や評価を高め、学生募集とも結びついていくものと思います。

**竹内** キーワードは「アクティブ・ラーニング」だと思います。昨年8月の中教審答申で出されていることは2つあります。1つは学修時間の確保。単位あたり90時間の学修が求められ、15回の授業なら1回あたり6時間の学修が必要です。2つめは実践型の教育の推進。理系であれば、実験準備をして実験をし、うまくいかなかったら繰り返して、後片付けまですると、普通に6時間くらい学習することになります。文系の学習時間が少ないといわれている中で、アクティブ・ラーニングで地域の中の課題を解決していく、というようなことを、大学の外で行えば、自然と学生たちが調べたり、予習をしたり、自発的に取り組むという形になっていくと思います。中教審の答申をひとつのチャンスとして、前向きに、真剣に取り組んでいけたらいいと思います。

**石原** 今、竹内先生が指摘された、学修時間の確保については、2013年度からは確実にやらなくてはなりません。新年度が始まるまでの間に、教務委員会や協議会で審議してもらう予定です。アクティブ・ラーニングについては、本学の学生の気質を考えると、それが全てになって座学が疎かになることが懸念されるので、教育現場の先生方にはその点に注意するようお願いしています。このことは、重要ですので、取組みを行うと同時に、その進め方を教育現場で検討していくことが大切になります。

**中村** アクティブ・ラーニングに対する、ふさわしい評価の仕方捉え方が大切だと思います。

報告会やゼミ活動など、他の学生と協力して準備をしたり問題について考えるという事は、これまでやってきています。

**石原** 本学は以前からゼミ大会や福祉の実習報告会、インターンシップなどをやってきましたので、これらをもっと体系化し、本学の教育体制について高校側にもアナウンスしていく必要があると思います。

**竹内** 学生が「自分ややる時間」と「知識を学ぶ時間」で、メリハリをつけて行っていくことが大切だと思います。全体の設計が重要ですね。

**中村** ゼミ合宿なども、有効なゼミ学習の機会だと思います。また先日、ゼミの卒論報告会を行ったのですが、自分の卒論であれば、プレゼンも立派にできていました。彼らなりに少しずつ着実に伸びています。今やこれだけのことを踏まえてアクティビティという広がりを与えられるのが大事なのだと思います。

**石原** 今はゼミナール大会や卒論発表会、五月祭や岐経祭などありますが、学年暦の年間行事の中で2ヶ月に一回くらいは必ず学生が関わる、参加する行事を設けてはどうでしょうか。学生の能力を高める場にもしたいと思うのですが。

**竹内** それなら学内のイベントだけでなく是非学外のイベントにも積極的に関わってほしいです。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜では、地域課題解決提案事業を行っており、今年度は本学から2つ参加し、1つはグランプリを受賞しました。来年度は日本経済新聞社と経済産業省が実施している「社会人基礎力育成グランプリ」の中部地区予選に参加してもらうことを考えています。

**石原** 私は学生時代にネットワーク大会、インターゼミ大会に参加しました。11月に中部ネットワーク大会がありますが、できれば最優秀ゼミは、1ゼミでもいいから大会に参加させたいですね。年間計画として、学生たちに提示できたら、学生たちの意欲も高まるのではないのでしょうか。

**竹内** 学内から大会に出ると言えば、課外活動では、サッカー部が全国大会に出場しました。こうした機会に学生がみんな応援に参加する文化があるといいですね。硬式野球部などでは是非明治神宮野球大会に行ってもらいたいです。

**石原** 20年ほど前は、サークル文化も低調だったため、正課だけでなく課外活動にも力を入れてほしいという要望があったこともあります。今は学生が活発に課外活動に参加しているのだからいいですね。今後自主的に活発な活動を続けていってほしいですね。

**中村** 学内外のイベントを通じて、自分たちの「居場所」や「価値」などを発見できれば、ポジティブな学生が育っていくのではないのでしょうか。本学は文武両道の大学です。「文武」の両面で、多様な成長の切り口があると思います。

## 多くの経験を積み、広い視野を持つ—— 本学の在学生に向けて望むことは——

**石原** 専門性と教養の両方を身につけてもらいたい。もうひとつは大学に入学したら、勉強もですがスポーツ系でも文化系でもいいから何かサークル活動に参加してもらいたいです。

**中村** COOの地域の中核メンバーだけでなくセンターである大学そのものにも「インテリジェント」であるべきだと思います。学生の「インテリジェント」なことを文武両道を柱としながら、自ら学生が積極的に活動する場所がたくさんあり、取り組んでいる大学であってほしい。そういう意味で若い人達にいろいろな角度から本学を理解してもらって、積極的に参加してほしいと思います。

**竹内** 広い世界で活躍することを在学中に考えて欲しいです。地域の取り組みが全国的に素晴らしい評価されるなど、広い視野を持って、地元での活動が中心に行っても評価されるように頑張ってもらいたいです。



略歴／関西大学大学院課程  
経済学研究科博士課程  
単位取得。教務部長、経  
済学部部長などを経て、  
学長に就任。専門は「計  
量経済学」。

学長  
石原 健一

副学長 竹内 治彦

略歴／慶応義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得。キャリア支援部長などを経て、副学長（地域連携担当）に就任。専門分野は「産業社会学」「労使関係」。

副学長 中村 共一

略歴／立命館大学大学院経営学研究科博士課程単位取得。図書館長、学内選出理事を経て、副学長（学生募集・入試担当）に就任。専門は「経営管理論」「消費文化」。

## 新しい自分の発見を

### 高校生のみなさんに向けて一言お願いします——

**石原** もし、今やりたいことが明確になっていなかったり、目標がなかったとしても、大学は4年間という長いスパンがあるので、心機転成長できる4年間です。以前の自分と違って、何か新しい自分を発見するために、4年間いろいろな活動に参加してほしいです。本学は規模としては小さな大学ですが、異文化体験旅行や語学研修制度を利用して、二度は海外に行ってもらいたいと思います。

**中村** 本学はスマートフォン、タブレットです。岐阜の小さな大学とは言え、自分を洗練させて、成長していきたいきっかけは十分にあると思います。社会のステップ、いわば「道場」として本学を活用してもらえればいいと思います。

**竹内** 学生から、本学はのびのびできるとよく聞きます。たとえ今、自信や実績がなくても自分の個性を発揮できる、提供できる可能性が本学にはあると思います。本学を大きな世界に飛び出していくステップにしてほしいです。

## 地域の方のニーズに応える大学

### 地域の知の拠点となることへの思い。どのように本学を活用して いただきたいかを教えてください——

**石原** 地域住民の方にも、遠慮なく大学へ来てもらいたい。我々も地域のニーズを汲み上げていくことが必要です。

**中村** 学生は、アルバイトや生活その他で地域の人たちのかかわりが多いです。色々な形で、大学と地域が体となって立派な若者に育て上げたいと思います。地域の方々にも厳しく優しく指導していただけたらと思います。

**竹内** 大学の地域貢献としては、社会貢献できる立派な学生を育てて地域へ送り出すことが第一の使命です。もう一つ、産学連携の立場からすると、理系の学部がないという面はあります。そこで、例えば金融機関系「ソルティンク」を五つような仕事ができるかが求められると考えています。先生方に、社会に求められていることにどれだけ時間を割いてもらえるか、それができれば社会の要求にも応えていきます。例えば企業研修のお手伝いをしたり、依頼のあった調査を行ったり、そういうことをできる「仕組み」を作ると、それらの要求に応えられたらと思います。

**中村** 大学でやっている市民講座は、現在のところ短期集中で行っていますが、担当しやすい教員と担当しやすい教員がいます。ただ、内容としてはおもしろい研究も多いので、恒常的な形で教養講座を開いてほしいかと思っています。

**石原** 例えば夏休みを使って、文化教室というような形で「サマーセッション」を開催できないかと提案したことがあります。トナール中国語会話など、本学は教養の先生も多いので、幅広い内容で開講できるのではないかと思います。地域の委託研究となると、専門教員が関わることが多いと思いますが、教養教員も関わった内容なら、関わることはできると思います。

**中村** それなら教養の先生方も関わりやすいですね。

**石原** 該当の先生が本学にいない場合は、大垣女子短期大学など近隣の大学、短大から来てもらうという方法もあります。

**中村** 「経大市民塾」の開催ですね。

**石原** COOとしての機能強化を図り、大学の存在意義を今まで以上に市民の方に認めていただきたいと思います。

## 失敗を活かし仲間と協力する大切さ

約4年間にわたる大学生活の中で、私は多くを経験し多くを学びました。その中で特に私にとって印象強かったものを、ご紹介します。

1つめは、「地域企業研究」で学んだ事です。私は、企業人育成コースに2年次から所属し、この講義を受講しました。この講義は、岐阜県内の有力企業の方から、会社の歴史・経営方針、経営戦略、求める人材など企業活動の詳細を学ぶことができます。その中で学んだ事は、「失敗することはとても大切だ」ということです。失敗によって、何ができなかったのかを真剣に考えることができ、それを活かすことによって、最初から成功したものよりも、絶対に良いものができるかと教えていただきました。私はここで、失敗しても諦めてはいけない、失敗が成功へのヒントになることを学びました。



企業人育成コースの授業風景

の大きな違いは、部費などの事務的なことや、監督やコーチがいなかったため練習メニューや大会参加への手続きなどをすべて自分たちで行わなければいけません。3年次には主将を経験し、より仕事が増えました。一つひとつの仕事が大変でしたが、仲間が協力して助けてくれたため、最後までなんとか同好会を運営させることができました。ここでは、仲間の大切さを改めて知り、さらに高校野球まで父母や監督、コーチの方々に、とても苦勞を掛けていたのだと知りました。軟式野球同好会に所属することで、一つのチームを作ることの難しさを学びました。

以上のように、私は失敗の大切さと一つのチームを作る難しさをこの4年間で学びました。私は、4月から社会人になります。社会人として働いていく中で、多くの責任を背負っていくなければいけません。その中で、私や仲間が失敗することは必ずあると思います。そこで、決して諦めるのではなく、失敗を活かし仲間と協力して成功を目指すし、卒業後、就職する企業に貢献していきたいと考えています。



河瀬 祥忠

経済学科4年  
大垣西高校出身

# 更なる飛躍を!

この3月に本学を卒業する4名の学生が、大学生活で頑張ったことや学んだことを紹介します。

## 大切な友人や信頼できる先生との出会い

この4年間で、多くの出会いがありました。また学内の活動のみに留まらず、自ら積極的に働きかけることで、たくさんを経験をすることができました。その中の一つとして、ハワイや中国を訪れた際、現地の人々の温かさを感じたことで、日本について客観的に捉えることができるようになりました。そして、社会福祉実習や施設ボランティアを通して出会った子どもたちの笑顔にもたくさんのご機嫌がされました。その子どもたちの「笑顔」を見る度に、幸せな気持ちになる反面、子どもたちを取り巻く社会環境について考えさせられました。また「信頼」が大切であることも学び、実習後も、「信頼を築く」ということを人と関わる上で大事にしています。



土井田 有美

臨床福祉コミュニティ学科4年  
海津明誠高校出身

に支えてくれる人たちがいたからこそ、乗り越えることができました。大切な友人や信頼の置ける先生と出会えたことで、わたしの考え方が大きく変わり、自分の道を生きようと思えました。大学に入るまでは、自分一人できていると思っていました。自分一人の人間に支えられて生きていくということに気が付かされました。そして、22年という長い間、何不自由なく暮らすことができているのは、今までずっと陰で支えてくれていた両親のお蔭であるということに気が付きました。

本学を卒業後、わたしは地元を離れ、県外の福祉施設へ就職します。就職先でもこの4年間で学んだことを活かして精一杯努力していくことが、長年わたしを支えてくれた両親への恩返しになると信じて、頑張っていきたいと思っています。



中国の友人宅での食事会

## ボーク先生との出会いが私を変えた

私の大学生活を言で表現すると「勉強です。入学当初の私は、これと聞いてやりたいうことがなく、やりたいことを見つけてよともしませんでした。そんな私に変化が訪れたのは1年の秋です。ただ、単位が欲しいという安易な考えで英会話の授業を受講した私は、イギリス出身のボーク先生が行う英会話の授業に参加しました。そこで、私は自分の無力さを知りました。その教室では日本語が禁止され発言時には英語だけで述べるというルールがあったのです。それまでに海外出身の先生が行う授業を受けたことがなかった私は、初めて受ける英語100%の授業に自身の無力さを感じたのと同時に英語力の重要性から「学びたい」という気持ちが込み上げてきました。その日から私は毎日決められた時間を勉強に費やし、多い日で8時間もの時間を英語に費けるようになりました。そして、その努力は結果に表れ、英検2級・TOEIC



山崎 祥悟

スポーツ経営学科4年  
滋賀学園高校出身



ボーク先生と英会話をする山崎さん

650を取得できるほどの力をつけることができました。また、昨年の夏には単身でイギリスへ留学をし、英語の世界を経験して教科書では学べないことを学ぶことができました。これらの経験を武器にして、就職活動をし、第志望の企業に内定を頂くことができました。私にとって大学生活は、8割が勉強で2割が娯楽といったものであり、毎日頭が痛くなるほど勉強をしましたし、2年間の人生でこの4年間は、一番勉強をし、自分と向き合いました。そして、今の私が間違いないといえることは、あの日、あの時間にボーク先生の授業に参加していなかったら今の自分はいないということです。人との出会いが私に変化をもたらす大きく成長させてくれたのだと感じています。岐阜経済大学に入学して先生方と出会えて本当に良かったです。来春には、社会に出なくてはいいませんが、私にはこの4年間の自信があるの不安よりも楽しみという気持ちのほうが大きくなっています。社会では、思いっきり働いてほしいです。

# 大学生活をバネに

## 学生生活を礎に一步一步前進を

あつという間に大学最後の一年を迎え、慌ただしい日々を過ごしてきました。昨年の春から、たくさんの就職説明会に参加し、あちこちに走り回り、時の流れの早さを感じます。そして、同時に卒業論文にも精一杯取り組んで、充実した日々を送ってきました。

私が大学生活のなかで頑張ってきたことは、ボランティア活動です。活動の中で一番に残っているものは、昨年の夏に参加した、大垣市立中川小学校での日中交流会のボランティアです。2年生に配当され、出身国の中国を紹介したり、日本の伝統文化を体験したり、私も大変勉強になりました。かわいい子どもたちと一緒にゲームをしたり、「コミュニケーションをとったり、とても楽しい時間が過ごせました。子ども達の笑顔に癒され、一緒に撮った写真は今でも宝物です。

また、私に一番変化をもたらしたことは就職活動です。就職活動では、たくさんの



中川小学校の生徒との思い出の写真



リン フウ

情報メディア学科4年  
明德義塾高校出身

企業の方と出会い、いろいろなことを学びました。面接の時には上手く自分のことを伝えられず力不足を痛感し、社会の厳しさを知りました。それでも落ち込んでいた時間はなく、自分に厳しく、日々自分自身の改善に努めました。そして以前から希望していた企業に内定を頂くことができました。現在は、アルバイトとして実習をさせていただいています。実習では多くの人と接することができ、視野が広がり嬉しい反面、社会という学生生活とは全く違う人間関係の中で戸惑うこともあります。しかし自分が好きで選んだ仕事なので、踏ん張ってやり遂げたいと思います。

あと少いで大学を卒業します。大学の4年間は論文や勉強など、大変なことでも多々ありましたが、大学生活で得たものは今の私の礎となっています。社会に出れば、今以上に大変なことがあると思います。そんなときは学生生活を思い出して、一步一步前に進んでいきたいと思っています。

# 岐経祭2012!

岐阜経済大学の楽しさや魅力を伝えたい  
～message～

新鮮な野菜はいかがですか!



## 岐経祭実行委員メンバーのひとこと

11月17日(土)、18日(日)、岐経祭が行われました。初日は悪天候に見舞われながらも、様々な楽しい企画や色とりどりの模擬店など大いに盛り上がりました。  
岐経祭はサークル活動の模擬店以外にも、まちなか共同研究室マイスター倶楽部のTMN(土まるけネットワーク)グループの学生が損斐川町の農家で育てた野菜の販売をしたり、同倶楽部の地域お助け隊の学生が郡上市明宝坂地域の住民の皆さんと明宝フランクや鶏ちゃんの販売をしました。また、ソフピア共同研究室の学生の研究発表のパネルが並べられるなど、岐経祭は地域との繋がり場の発信の場ともなっています。

- 1 林 悠介**  
委員長兼企画部長  
経済学科3年  
岐阜農林高校出身  
素晴らしい岐経祭になりました!  
実行委員長としてまもられている心配でしたが最後まで頑張ってくれた実行委員会の皆、関係者の方のおかげで素晴らしい学祭になったと思います。
- 2 岩本 舜汰**  
広報部長 GSB総長  
スポーツ経営学科2年  
浜松学院高校出身  
岐経祭、最高でした!!  
来年度の岐経祭も全力尽くして頑張ります!
- 3 岡本 悠幹**  
副委員長 装飾部長 企画  
スポーツ経営学科2年  
近畿大学附属新宮高校出身  
ありがとうございました。  
今年も去年に引き続き大変でしたが、やりがいはいっぱいありました(\*≧▽≦)岐経祭に関わってくれたみなさん、ありがとうございましたd(´▽`!!)
- 4 清水 雄貴**  
備品担当  
経済学科2年  
各務原西高校出身  
無事に終わって安心しました!  
まだ二回目で、慣れないこともあり、トラブルも少々ありましたが無事に終了できてホッとしています。来年はミス減らせるようがんばります。
- 5 宮川 桂子**  
パンフレット  
情報メディア学科2年  
岐阜工業高校出身  
お疲れさまでした♪  
岐経祭2012は終わりましたが、来年もよろしくお祈りします!!
- 6 鷺見 恵**  
ケータリング  
スポーツ経営学科2年  
本巣松陽高校出身  
ありがとうございました!!  
岐経祭2012、頑張りました!関わってくださった全ての皆さんに感謝感謝です!ありがとうございました!
- 7 山中 秀則**  
装飾補佐  
スポーツ経営学科2年  
相可高校出身  
とても楽しかったです!  
初めて実行委員として迎えた学祭、大変だったが、毎日充実していてとても楽しかった!
- 8 飯田 莉奈**  
ケータリング部長  
情報メディア学科2年  
起工業高校出身  
楽しかったです!  
ケータリング部長としての初めての学祭、色々あったけど楽しかったです♪来年も頑張ります!!
- 9 青山 秀仁**  
会計  
情報メディア学科2年  
中津商業高校出身  
とても良かったです♪  
幹部としての初めての学祭、大成功に終わり、とても良かったです!
- 10 服部 翔子**  
ケータリング補佐  
公共政策学科1年  
羽島高校出身  
来年も頑張ります!  
初めての岐経祭でわからないことがたくさんあり、中々実行委員会のみんなの役に立てなかったのが来年はこの反省を活かして役に立てるように頑張ります!
- 11 桂川 由衣**  
企画  
公共政策学科1年  
益田清風高校出身  
とても良い思い出になりました!  
はじめての学祭でわからないことも多かったけど、頑張って成功させることができたと思います。とても良い思い出になりました。
- 12 亀山 匠啓**  
広報補佐  
経済学科1年  
加茂高校出身  
ありがとうございました!  
いろんなことがあったのですが、皆で一つの目標を達成する為に努力する素晴らしさを改めて実感出来ました!
- 13 田邊 哲也**  
会計  
情報メディア学科1年  
羽水高校出身  
無事に終わられてよかったです。  
初めての学祭で戸惑うこともありましたが、無事に終わることが出来たなによりです。
- 14 清水 航**  
装飾補佐  
スポーツ経営学科1年  
京都暁星高校出身  
貴重な体験ができました!  
初めての岐経祭だったけど貴重な体験が出来て良かったです。来年は今年以上に盛り上がる岐経祭にしていきたいです。
- 15 木村 良洋**  
備品  
経済学科1年  
大垣東高校出身  
ありがとうございました!  
初めて実行委員として参加した岐経祭、辛い時もありましたが最後は大きな達成感を感じられました!

# 第40回 ゼミナール大会を開催!



ゼミナール大会閉会式にて

12月19日(水)、第40回岐阜経済大学ゼミナール大会を開催しました。ゼミナール大会とは、それぞれのゼミに設けられたテーマを協力して調査・研究しまとめたものを発表する大会です。

大会の準備や運営は学生が主体的に行っており、学生同士の繋がりも強まる伝統ある行事で、今年度は27演習36チームが参加しました。

学生の発表後は2名の審査員の教員により、研究内容や情報分析力、発表態度などの全体をとおした審査がされ、5会場それぞれで総合得点が高かったチームに優秀賞・奨励賞などの賞が贈られました。

優秀賞の二つに選ばれた岸ゼミの学生たちは、50点満点という素晴らしい成績を獲得しました。その研究内容を紹介します。



ゼミナール大会司会者講習会

## 優秀賞受賞ゼミ

50点満点をとった岸ゼミの研究内容

### 野球のバッティングにおけるルーティン行動の実態と心理的影響

代表者：鶴飼 住資(スポーツ経営学科3年 瑞浪高校出身)

スポーツにおけるルーティン行動は、スムーズな動作遂行のために心身を最適な状態へ調整するものといわれている。本研究では、これを確かめるために、野球選手のバッティングにおけるルーティン行動を調査と実験により検討し、その実態と心理的影響を明らかにすることを目的とした。

対象者は、本学野球部員49名で、バッティング前のネクストバッターサークルとバッターボックスにおけるルーティン行動に関する調査と心理的競技能力診断検査(DIPCA)を実施した。その結果、ネクストバッターサークルでのルーティン行動は、「ストレッチ」「準備動作」「リラックス」「スイング動作」の4つに分類された。また、バッターボックスでのルーティン行動は、「ストレッチ」「準備動作」「確認動作」「挨拶」の4つに分類された。普段のルーティン行動の有無によりDIPCAの比較を行ったところ、全体得点において有意差が認められた。ルーティン行動を行うバッターの方が心理的競技能力は優れていることを示している。ルーティン行動を行うバッターは何らかの工夫を行っていて、それがリラックス能力や集中力、予測力をうみだすと考えられる。

さらに、フィールド実験の被験者として8名を選択し、ルーティン行動の有無による2条件のバッティングを各条件で1人5打席ずつ、計10打席行った。そして、打撃終了後に試合中の心理状態検査(DIPS)を実施した。打撃成績を比較したところ、ルーティンを行うバッターの方が平均打撃成績で上回っているが有意差



は認められず、打撃パフォーマンスに直接影響しないと考えられる。ルーティン行動の有無による打撃中の心理状態を比較したところ、いくつかの尺度で有意差が認められ、ルーティン行動をとらないことで、いつものプレイができなくなり、集中力が乱れ、さらにバッティングへの不安が高まることを示している。普段のルーティン行動を行わないで打撃を行うことは、成績は有意に低下しないが、心理状態は不安定になる傾向が示された。ルーティン行動はバッターにとって、心身を望ましい状態へと調整するための有用なツールであると考えられる。

#### 井戸ゼミ

学園ソング制作を支援する作曲マルチメディアWebサイト



#### 小倉ゼミB

ビール業界の経営変化—環境への対応—



#### 菊本ゼミB

まちづくりと着地型観光の推進



#### 佐藤(ハ)ゼミA

利用者の方は今の食事に満足しているか





## 女子ソフトボール部 WOMEN'S SOFT BALL

# 2012年度岐阜県A級 ソフトボールリーグ各部門で表彰

12月1日(土)に同リーグの表彰式が行われ、川崎千明監督と5名の学生が表彰されました。

### 個人賞

首位打者賞・盗塁賞 川瀬 綾子(スポーツ経営学科2年 尾北高校出身)  
本塁打賞・最優秀防御率賞 井上 智尋(臨床福祉コミュニティ学科2年 京都明德高校出身)  
最多勝利投手賞 小崎 愛美(スポーツ経営学科2年 伊勢学園高校出身)

### 年間総合優秀選手賞

最高殊勲選手賞 川瀬 綾子(再掲)  
最優秀投手賞 井上 智尋(再掲)  
優秀選手賞 大塚 友紀(スポーツ経営学科2年 本巣松陽高校出身)  
優勝監督賞 川崎 千明

### ベストナイン

投手 小崎 愛美(再掲)  
捕手 大塚 友紀(再掲)  
一塁手 井上 智尋(再掲)  
二塁手 川瀬 綾子(再掲)  
外野手 傍島 琴絵(スポーツ経営学科2年 岐阜女子高校出身)



創部3年目、試合ができるようになって2年目のシーズンを終えました。厳しい練習やトレーニングを積んできたことが結果として少しずつ出てきていると思います。  
この度、岐阜県A級リーグにおいて数名の学生が表彰を受けましたが、これにおける事なくチーム同努力を重ねていきたいと改めて感じております。今後とも指導・ご支援よろしくお願いたします。

監督 川崎 千明



## 硬式野球部 BASE BALL

# 2012年度 秋季リーグ戦を終えて



▲学生時代最後の打席(2012.10.14 大野レインボースタジアム) VS朝日大学 レフト場外への大ホームランでした

### 打点王

伊藤 匠(経済学科3年 海星高校出身)

### ベストナイン

外野手 大底 紀広(スポーツ経営学科3年 沖縄尚学高校出身)  
指名打者 近藤 祐太(スポーツ経営学科2年 静岡高校出身)

秋季リーグ戦は、6勝7敗(勝点2.4位)残念な結果で終わりました。春秋連覇に挑んだ秋季リーグ2週連続勝点王を挙げ順調な滑り出しでありましたが、その後、投打の歯車が噛み合わず失速してしまいました。  
しかしながら、3名の個人表彰選手を輩出できましたことは素直に喜びたいと思います。現在は、リーグ戦に花を咲かせたいと厳しい体力トレーニングに励んでおります。今後とも声援ください！

実業団野球にむけて

田原 靖彪  
スポーツ経営学科4年 大垣日本大学高校出身

大学生活でどうしても悔しくて忘れられない場面があります。それは東海大会で目の当たりにした明治神宮大会出場を決めた三重中央大学の駒上げです。  
来年こそは岐阜経済大学が明治神宮大会出場を成し遂げ、駒上げの場面が後輩達の歓喜の姿であることを期待します。  
私もこれからは西濃運輸野球部でチームにとって「なくてはならない存在」になれるように、また、都市対抗野球大会に出場できるように、後輩達に負けない熱い気持ちで夢を追い続けます。「思考は現実化する」といいます。必ず達成する！という強い決意を持ってお互いに夢に向かって頑張りましょう。

総監督 塚田 勝



## 女子バレーボール部 WOMEN'S VOLLEY BALL

12月3日から6日まで関東で行われた「第59回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会」に参加しました。全国17チームの大学が集まり競い合いました。  
私たちはグループ戦を2位通過し、決勝トーナメント戦へ駒を進め、1回戦は関西外国語大学と対戦しセットカウント2-0で勝利しました。続いて2回戦は西日本インカレ・東西選抜覇者である鹿屋体育大学と対戦しセットカウント1-2で敗れました。  
最終結果はベスト64で終わりました。これからも感謝の気持ちを忘れず頑張りますので応援よろしくお願いたします。



西村 麻衣  
スポーツ経営学科2年 草津東高校出身



## 男子バレーボール部 MEN'S VOLLEY BALL

2012年度は、東海大学バレーボールリーグ戦秋季大会で1部5位と、過去最高の順位となり、また、全日本バレーボール大学男子選手権大会においては、東海大学からセットを奪うなど、これまでの成果が少しずつ表れた年でした。  
2013年度は、個々の能力意識・責任感を高め、今年以上の成績を残すことを目標に取り組みしたいと思っておりますので、ご注目いただくと共に、応援をよろしくお願いたします。

2013年度の抱負

監督 杉本 孝行

東海大学女子バレーボールリーグ戦秋季大会 2部優勝(6勝1敗)  
岐阜県大学女子バレーボールリーグ戦秋季大会 1部優勝  
全日本バレーボール大学女子選手権大会(全日本インカレ) 2回戦敗退(●1-20鹿屋体育大学)

後期試合結果一覧

東海大学男子バレーボールリーグ戦秋季大会 1部5位(2勝5敗)  
岐阜県大学男子バレーボールリーグ戦秋季大会 1部準優勝  
全日本バレーボール大学男子選手権大会(全日本インカレ) 2回戦敗退(●1-20東海大学)





## 陸上競技部 TRACK AND FIELD

# 全国大会男子400mで5位入賞を果たす



2012年10月19日、21日、第28回日本ジュニア陸上競技選手権大会が瑞穂公園陸上競技場において行われました。

本大会は参加標準記録を突破した選手のみが出場できるレベルの高い大会であり、ジュニア世代の日本人を決める大会で、東魁輝さんが5位に入賞しました。

### ●男子400m 5位 《記録》48秒36

東 魁輝 (スポーツ経営学科1年 伊勢工業高校出身)



#### 本人のコメント

上位入賞を狙って挑んだ大会でしたが、5位に終わり、とても悔しいです。でも全国で戦えたことを誇りに思い、これから頑張っていきたいです！

### 揖斐祐治駅伝監督の下で本格的に始動

今年度から陸上競技部駅伝監督に就任した揖斐祐治客員教授の指導の下、動き始めた駅伝選手たち。

揖斐監督の指導により学生たちはどう成長するのか、来年度以降も期待できます。なお、今年度の試合結果は下記のとおりです。

- 第74回東海学生駅伝対校選手権大会  
17大学中10位 (3時間37分44秒)
- 第59回中山道東濃駅伝競走大会  
岐阜県内4位・総合14位 (2時間56分20秒)

#### 監督 揖斐 祐治

2012年4月から駅伝監督に就任し指導にあたってきましたが、非常に真面目で熱心な学生に恵まれ充実した1年でした。駅伝シーズンの初戦として行われた「第44回全日本大学駅伝」では、1年生の大野達人さんが個人として東海学連選抜に選ばれチームに勢いを与えました。その後の駅伝では「中山道東濃駅伝」で過去チーム最高順位につけ、2月3日に行われた「名岐駅伝」の出場権を獲得しました。また12月



に行われた「東海学生駅伝」でもチーム記録を約4分更新し、過去チーム最高順位で岐阜県内の大学のトップになり、全日本大学駅伝出場を目指すよき足掛かりになりました。来年度は、競技力の高い新入生の入学も予定しており、更なる飛躍が期待されます。今後は、一年でも早く全日本大学駅伝に出場できるようチーム一丸となって邁進してまいります。ご支援、ご声援よろしくお願いたします。



## サッカー部 SOCCER

# 東海学生サッカーリーグ1部残留決定!

12月8日(土)本学グラウンドでサッカー1部が2部残留をかけ、2部リーグで好成績を収めた愛知東邦大学と入替戦を行いました。結果は4対0と勝利を収め、1部残留が決定しました。

#### 監督 高橋 正紀

今シーズンは県内の大学チームとしても、サッカー部としても初の全国大会(総理大臣杯)出場を果たしましたが、リーグ戦では1部8位(10チーム中)となり、まさかの入替戦となりました。結果的には、入替戦第1戦(アウェイ)は愛知東邦大(2部3位)の素晴らしい粘りで1部の引き分けに持ち込まれましたが、第2戦(ホーム)で経大イレブンの4年生を中心としたメンバーが1部リーグチームとしての持てる力を十二分に発揮して4-0の堂々たる勝利を収め、来シーズン1部リーグ5シーズン目の権利を勝ち取りました。来シーズンは今年の到達点を乗り越えるべく、新4年生が中心となって「学生主導」「自主・自立」人間の成長を掲げていきます。

#### 演仲 剛士 (スポーツ経営学科3年 新翔高校出身)

12月8日に行われた、東海学生サッカーリーグ1・2部入れ替え戦で無事、勝利を収め、1部に残留が決定しました。試合の詳細は1戦目が(1-1)、2戦目が(4-0)の1勝1分でした。お忙しい中たくさん応援にお越しいただきありがとうございました。

入れ替え戦に出場することになりましたが、チーム丸となり勝利を掴み取ったことは自分たちの力となったと思います。この力は来年度の新チームに受け継がれ、より一層頑張っていこうと動き始めました。来年度の2013シーズンは「Overcomer」俺がやらなきゃ誰がやるをスローガンに、自分たちがサッカーを楽しむために積極的にアクションを起こしていきます。そして、岐阜経済大学の名前が東海そして全国へ今まで以上に轟くような活躍をします。応援よろしくお願いたします。



## ボート部 BOAT

### 来シーズンの抱負



女子主将  
信里 英梨香

(スポーツ経営学科3年 坂出高校出身)

2012年度のシーズンは、岐阜経済大学ボート部の女子部門において、創部以来初めて、全日本軽量級選手権と全日本新人選手権において、準優勝を果たし、全国レベルの大会において、念願のメダルを獲得しました。本学ボート部の女子は、選手(漕ぎ手)が4名と少なく、一人でも欠けたら、大会出場が難しい状況の中、各々が厳しい練習を耐え抜き、また、励みあつた結果が、今シーズンの結果に繋がつたと思います。しかし、私たちが目標としているのは、全日本大学選手権での優勝です。そのために「今」、厳しい冬のトレーニングに全力で取り組んでいます。昨年の結果については満足していません。より力をつけ、応援していただいている皆様にも少しでも恩返しできるように、飛躍したいと思っていますので、変わらぬ応援をよろしくお願いたします。



## 4月解禁の就職試験に向けて

3年次生の諸君は、12月の会社説明会・エントリー開始から本格的な就職活動を始めました。2012年度の就職活動は、会社説明会・エントリー開始を2ヶ月繰り下げるという倫理憲章の変更があり、就職活動は短期集中を強いられるため、業界・企業研究の準備不足により苦戦した学生も多かったのが特徴です。2013年度は、2年目となり先輩からのアドバイスで早めに就職活動に取り組み学生が増えています。12月は、大学及び経営者協会等の経済団体が開催する企業説明会

に参加し、広い視野で業界・企業研究を行ってください。3月は書類選考・筆記試験等の1次試験があり、4月から面接試験が始まります。新政権の景気回復策が期待されますが就職環境は依然厳しい状況です。企業は将来を担う幹部候補生を厳選採用します。就職活動は初めての経験であり、うまくいかない場合も多々あると思いますが、ひとりでは悩まずキャリア支援課に気軽に相談ください。キャリア支援課は就職サイトにはない優良企業の求人情報が集まっています。ぜひ、活用ください。

### 就職力育成実践

本学では、キャリア教育として1年次より授業科目の「キャリア形成Ⅰ～Ⅴ」を開講しています。キャリア形成Ⅴ(3年次後期開講・就職力育成実践編)では、就職活動本番を間近に控えた3年生を対象に、左記の講座を実施しました。

特にエントリーシート・履歴書の書き方講座では、学生一人ひとりが「学生用ジョブ・カード」作成を通じて、これまでの振り返りと、その過程の中で身についた自分自身のPRポイントを確認していました。

後半の12月からは、今後本格化する会社訪問に向けて、ビジネスマナー実践編講座を実施し、服装、言葉遣いの注意点を確認しました。そして採用試験の早期段階で実施されるSPI試験対策のクリアに向けての講座も合わせて行いました。

最終日の1月28日には「まとめ」として模擬集団面接試験を実施しました。学生は面接用シートを記入し、学外から招聘した面接官と、本番さながらの雰囲気の中で面接に取り組みました。

11月からはハローワーク大垣との連携により自己分析、エントリーシート・履歴書の書き方グループディスカッション、面接対策の講座を行いました。

### キャリア形成Ⅴ

NO.	月	日	曜日	テーマ
1	9	24	月	●オリエンテーション
2		1	月	●就職活動本番に向けて
3		15	月	●J-NET登録 ●情報サイトの活用方法
4		22	月	●業界研究講座 ●情報サイトの活用
5		29	月	●企業研究講座
6		5	月	●自己分析
7	11	12	月	●エントリーシート・履歴書の書き方
8		26	月	●エントリーシート・履歴書の書き方
9		3	月	●グループディスカッション指導
10		5	水	●模擬グループディスカッション
11		10	月	●面接指導
12		17	月	●ビジネスマナー実践編
13		7	月	●SPI試験対策
14	1	21	月	●SPI試験対策
15		28	月	●まとめ

## 業界研究・金融セミナー

3年次生に対し、12月1日の就職活動開始に向けたガイダンスとして、業界研究会と金融セミナーを開催しました。

業界研究会は、10月と12月の開催で、第1回は、流通業界(青山商事(株))、スポーツ業界(株)コパン)、公務員(岐阜県警察)の3つの業界。続く第2回は、食品業界(名古屋製酪(株))、流通業界(株)パロー)の2つの業界から講師を招聘し、業界を取り巻く環境や具体的な仕事内容等について、説明を受け研究を行いました。



金融セミナーは、11月から12月にかけて5回実施しました。2回の金融業界の概論(株)共立総合研究所)から、具体的な金融機関の研究(大垣信用金庫、N&Iプロジェクト(株)、(株)大垣共立銀行)へと理解を深めました。

就職活動では、業界や企業の研究が不十分だと、ミスマッチの原因となったり、選考にすら進めないことがあります。就職活動では、相手を知り(業界・企業研究)、自分を知る(自己分析)ことが大切です。



## ●就職特別講座

2012年12月1日～3月16日まで7回のシリーズで就職特別講座を開催します。

本学では、来年度の就職環境を今年度同様に非常に厳しい状況に置かれるものと推測しています。この状況下で企業の厳選採用に選ばれるため、就職特別講座を開催します。

### ■日程・内容

	月・日	内 容	会 場
1	12/1(土)	エントリーシート、履歴書の書き方①	第3会議室
2	12/8(土)・9(日) 1泊2日の合宿	第1回就職合宿	大垣フォーラムホテル
3	1/12(土)	面接対策①	6102教室
4	2/10(日)・11(月) 1泊2日の合宿	第2回就職合宿	大垣フォーラムホテル
5	2/15(金)	面接対策②	6102教室
6	3/ 5(火)	グループディスカッション対策	6102教室
7	3/16(土)	小論文対策	6102教室

## ●就職特別講座の合宿

12月8日(土)・9日(日)、就職アドバイザー今枝正史氏を講師に迎え、第1回就職特別講座の合宿を大垣フォーラムホテルにて開催しました。3年次37名と4年次4名(チューター)の41名が参加しました。

合宿の1日目は、就職活動の基本である自己分析を行い、自分の強みをPRするためのエントリーシート・履歴書を完成させ、2日目は、グループディスカッション・面接で自分を売り込むためのコミュニケーションスキルについて指導を受けました。

また、講師およびチューター(4年次の内定者)の熱心な指導が夜遅くまで続きました。参加者は就職活動に対する不安もありましたが、この合宿に参加することにより、参加者37名と情報交換し、厳しい就職活動をやり遂げる自信がついたとの感想が寄せられました。

なお、第2回就職合宿は2月10日(日)・11日(月)に開催されました。



## ●2012年度(2013年3月)卒業予定者の主な内定先一覧〈順不同〉

**金融保険業** 野村證券(株)・(株)福邦銀行・大垣信用金庫・滋賀中央信用金庫・岐阜商工信用組合  
グリーン近江農業協同組合・西美農農業協同組合・西びわこ農業協同組合・めぐみの農業協同組合

**情報通信業** 旭情報サービス(株)・共立コンピューターサービス(株)

**建設** 住友林業(株)・セキスイハイム中部(株)・セキスイハイム山陽(株)

**製造業** 揖斐川工業(株)・(株)エヌビーシー・MTK(株)・オキコ(株)・サンメッセ(株)・三甲(株)・大和冷機工業(株)  
棚橋工業(株)・東海紙器(株)・日本特殊陶業(株)・(株)パールマネキン・扶桑工業(株)  
(株)松永製作所・マルヤス工業(株)・三国コカ・コーラボトリング(株)・(株)メトーカケフ  
矢橋林業(株)・ラブリークイーン(株)

**運輸郵便業** 西濃運輸(株)・濃飛西濃運輸(株)・佐川急便(株)・日本郵便(株)・福山通運(株)・(株)ムロオ

**卸 売** 中セキ東海(株)・イワタニ東海(株)・太田商事(株)・新品川商事(株)・デュプロ販売(株)・中北薬品(株)  
丸井産業(株)・(株)本久ホールディングス

**小 売** (株)カインズ・岐阜スズキ販売(株)・(株)杏林堂薬局・ゲンキー(株)・(株)コメリ・(株)サークルKサンクス  
トヨタカローラ岐阜(株)・(株)ノジマ・(株)ハナテン・(株)パロー・(株)フィールコーポレーション  
(株)松源・(株)ヤナセ・ユタカファーマシー(株)・(株)ユース

**サービス業** (社福)下呂市社会福祉協議会・(株)コパン・(株)セノン・太陽建機レンタル(株)・(株)マイナビ  
(株)ラウンドワン・(社福)恩賜財団愛知同胞援護会・和光会グループ

**公務員** 福井県警察官・大垣市消防組合・養老町消防本部・加賀市消防本部  
福山地区消防組合・豊城市消防本部・自衛隊

## 『日経グローバル』全国大学の地域貢献度ランキングに上位ランキンしました

12月3日発行の日経グローバル2009号（日本経済新聞社と日経産業消費研究所が、地域創造のために創刊する専門情報誌）に、全国大学の地域貢献度ランキングが掲載されました。

本学は総合ランキング532大学中65位と昨年度より19位もランクアップしました。その他の個別ランキングでも、左記のとおり上位に名を連ねました。

この調査は国公私立大学の地域貢献度を様々な観点から測ることを目的としており、532大学が回答したアンケート結果を分析し、ランキングが発表されています。



私立大  
上位ランキング

15位  
385大学中

地域別  
上位ランキング(東海)

6位  
61大学中

大学設置形態別上位ランキング  
(経済・経営・商業系)

2位  
39大学中



## まちなか共同研究室 マイスター倶楽部地域お助け隊が グランプリを受賞しました

12月22日(土)、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の主催による平成24年度「学生による地域課題解決提案事業」成果報告会が岐阜大学サテライトキャンパスにて行われ、まちなか共同研究室マイスター倶楽部地域お助け隊がグランプリを受賞しました。



「学生による地域課題解決提案事業」とは、学生が地域の課題について研究・実践し、解決に向けた提案を行うものです。報告会では、合計10団体の代表者がパワーポイントを使用したプレゼンテーションを実施しました。

岐阜経済大学まちなか共同研究室マイスター倶楽部からは、「交流と移住の基礎的条件に関する調査」と題して報告しました。発表者は、このプロジェクトグループで「地域お助け隊リーダーを務める山口信さん(経済学科3年 粉河高校出身)で、岐阜県郡上市明宝坂本にて「國田家の芝桜を守る会」の皆さんとともに展開した活動を中心に報告しました。全ての発表が終了した後には審査が行われ

その結果、マイスター倶楽部地域お助け隊の報告が10発表中、グランプリを受賞しました。



山口さんは、「坂本の皆さんに学び、教えていただいたことが多くありました。ありがとうございました。」と感謝の言葉を述べました。

## ソフトウェア共同研究室学生研究員 情報処理学会第75回 全国大会にて研究成果を発表

ソフトウェア共同研究室学生研究員の2名が、情報処理学会第75回全国大会のモバイルコンピュータに関するセッションにて研究成果を発表しました。

情報処理学会は、「コンピュータとコミュニケーションを中心とした情報処理に関する学術、技術の進歩発展と普及啓蒙を図り、会員相互間および関連学協会との連絡研修の場となり、もって学術、文化ならびに産業の発展に寄与する事を目的としている情報処理分野における最大の学会です。

第75回全国大会は、「ここから始まる情報社会の未来」というスローガンにて、東北大学川内キャンパスを会場として3月6日～8日に開催されます。



久住 裕也  
情報メディア学科2年 大正工業高校出身  
Androidアプリケーション開発における画面認識手法の検討

現在、日本のスマートフォン利用者数は、全携帯利用者1億2700万人の23.5%にあたる2400万人以上です。なお、プラットフォームのシェアは、Androidが64.1%と首位を占めています。しかし、Android市場は形成されて約3年しか経過していないため、Androidアプリケーションの開発ノウハウが成熟していません。本稿では、Androidアプリケーションの実行速度の向上や容量の軽量化を実現する開発手法について検討した結果を述べ、また、本研究の開発方式を適用したAndroidアプリケーション開発における現状と課題に対する取り組みの指針について報告します。

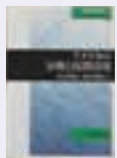


岡田 実  
情報メディア学科3年 ウィズナレッジ高校出身  
電子クレンジングデバイスを用いたお絵かきソフトウェアの検討

現在、日本では4人に1人がスマートフォンやタブレットなどを利用したモバイルアプリやタブレット端末を配布し、教育効果が検討されており、幼児にタブレット端末を配布し、教育効果の向上を図る実証実験も予定しています。本研究では、従来のクレンジングデバイスによる学習効果の違いについて、システムを試作における現状と課題に対する取り組みの指針について報告します。

## 近著紹介

### アメリカの分権と民間活用



塚谷 文武  
准教授 分担執筆  
日本経済評論社  
2012年8月

本書は、「アメリカの財政と分権」シリーズ(渋谷博史監修、全8巻)の第1巻です。本シリーズでは、アメリカ社会において自由と多様性を維持する条件として民主主義と分権システムに着目し、その条件が政府部門の各分野で貫徹されることを実証しています。シリーズ第1巻にあたる本書では、アメリカ・モデル福祉国家の「分権的な小さな政府」と民間活用(NPOなど)というアメリカ的な特質を、税制、福祉、医療、交通政策の分野の検討を通して明らかにしています。

### 認知症がある人をケアする BPSDによる生活場面の困難さ



佐藤 八千子  
教授 共同執筆  
(株) 学文社  
2012年10月

「認知症」がある人とどう付き合ひ、どうケアしていくべきか? 「認知症」の症状や治療については勿論、「認知症ケア」についての歴史、我が国の現状、ケアの実践や事例紹介なども掲載。認知症高齢者の生活場面の困難さや認知症の人の権利、また家族への支援についてなど、さまざまな方向から、認知症がある人をケアすることを考える一冊です。

### 天恵と天災の文化誌



森 誠一  
教授 共同執筆  
東北出版企画  
2012年9月

本書は、現地調査および周辺支援体制の調査を通して、被災地域で物質的・文化的・環境的に求められるもの、および必要とされる地域間の絆としてのボランティア活動とともに、その問題点や課題を抽出し、被災者支援や復興体制とはいかにあるべきかについての研究成果の報告的な性格をもつものです。同時に、震災での多様な地域支援活動の展開を思い入れをもって紹介しています。

### Geospatial Techniques in Urban Planning



杉原 健一  
教授 分担執筆  
Springer 出版  
2012年1月

欧米では著名な出版社の[Springer出版]の「Advances in Geographic Information Science(地理空間情報科学の進歩)」というシリーズで、「Geospatial Techniques in Urban Planning(都市計画における地理空間技術)」というタイトルの書籍において、第13章「Automatic Generation of Virtual 3D City Models for Urban Planning(都市計画のための仮想3D都市モデルの自動生成)」というタイトルで、分担執筆しています。

## 高橋正紀教授が博士号を取得しました

高橋正紀経営学部教授は、2012年11月21日付で岐阜大学より博士(医学)の学位を授与されました。学位論文は、「スポーツマンの心身の講義理解後のスポーツ実践が生きがい感と自尊心へ与える影響」。



経営学部

# 大野 貴司

准教授



スポーツビジネスの研究は本を出し、学会賞を頂き一定の成果を収めたので2010年で一区切りして今は次のような新しい研究をしています。一般に経営組織論を考える上で重視しなければならない側面として、その「目的（合理性）」と「人間性」があると言われています。合理性とは、組織がその目標を達成することを意味し、人間性とは、組織にいる人々が人間らしく働く、つまりはやりがいや誇りを持って働くことを意味します。この合理性と人間性を統合することこそが、経営組織論におけるひとつの大きな研究課題であり、多くの研究者によってその説明が試みられてきました。私自身も、この「組織における合理性と人間性の統合」に大きな研究上の関心を寄せています。

具体的には、企業の戦略が創られていく戦略形成過程において、組織にいる人々の意志や創造性を包摂することにより、その合理性を高めていくことはできないかを考えています。その意味では、私の研究上の関心は経営組織論と経営戦略論にまたがるものになります。近年は、ダイバーシティ・マネジメントが実務や研究上で注目を集めたり、この岐阜においても大垣共立銀行や未来工業などのように従業員の創造性や自立的行動を企業の活性化へとつなげている企業は珍しくありません。

現在は、こうした研究課題に対し、「イシュー・セリング（部下による提案活動）」、「実践としての戦略（ヨーロッパの戦略研究者を中心に展開されている戦略の構成主体の実践に注目しようというアプローチ）」、「ドクターにより提示されている責任ある労働者（労働者に自分の仕事や職場、企業に責任を持たせ、経営者のな目で企業を見られるようにすること）」などの理論的なアプローチからの解決を試みています。その中でも最近では、「ストーリーテリング」に関心を持っています。ストーリーテリングとは、その名の通り、経営者が従業員に企業の進むべき道を物語にして語り、彼らの感情を鼓舞し、眠っていた情熱を呼び起こし、企業の目標達成へと動かしていくことですが、経営学者はまだまだこの物語の持つ力を十分認識しきれていないところがあり、今後私を含めた経営学者は物語への理解を深める必要があると言えるでしょう。

## PROFILE

1977年埼玉県浦和市（現さいたま市）生まれの浦和育ち。ジェフユナイテッド千葉で活躍した坂本将貴は小・中学校時代の同級生。地元の私立高校を卒業後、大学浪人を経て、明治大学経営学部入学。大学卒業後、同大学大学院経営学研究科博士前期課程入学。同修了後、横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士後期課程入学。同単位取得退学後、1年間の就職浪人を経て2007年4月本学着任。2010年4月に現職。専門は、経営戦略論、経営組織論、スポーツマネジメントなど大学院時代より一貫して経営戦略・組織理論に基づいたスポーツビジネス研究を行ってきた。近年は、自らのベースである経営理論・学説に立ち返った研究活動を展開している。主要研究業績に『プロスポーツクラブ経営戦略論』（三恵社）、『スポーツ経営学入門』（三恵社）、『スポーツマーケティング入門』（三恵社）、『賃金事典』（労働調査会）、『体育・スポーツと経営』（ぶくろう出版）などがある。2011年3月には、日本体育・スポーツ経営学会奨励賞を受賞した。特技は、日本拳法（二段）、サンボ（ロシアの格闘技）。

## 趣味拝見

「スポーツ」というと担当科目そのままですので、それ以外の趣味ですが、まず落語鑑賞・寄席通いがあります。中学時代に社会科見学で一度寄席に行き、それ以来、暇を見つけては寄席に通っています。東京にもいくつか演芸場がありますが気に入りは上野広小路です。「落語は人間の業の肯定」と立川談志師匠が言っていますが、人間の弱さ、ダメな部分を否定せず、あるがままに受け入れて生きていくという意味だと私は解釈しています。これは人生にも共通することのような気がしています。談志師匠と言えば、「芝浜」を思い浮かべる人が多いのですが、談志師匠の唄の中では「黄金餅」「死神」「らくだ」などがお勧めです。興味のある人は談志師匠のCDなどを購入してみてください。落語に関心のある学生と一緒に寄席に行きましょう。

その他の趣味としては、デジカメを持ち、東京の街を歩くというのがあります。大通り、裏道をくまなく歩きます。AKB48でおなじみの秋葉原、韓流ショップや韓国料理屋が立ち並び新大久保も私の大学時代からすいぶん変わりました。本学に来てからは名古屋・岐阜の街なども散策するようになりました。

## 全学体制での防災訓練を実施

11月21日(水)、講義中に和歌山県南方沖でM8.0の地震が発生したと想定し、災害対策本部長である谷江幸雄学長(当時)以下全学体制で防災訓練を実施しました。

大規模災害に備えて、災害に対する危機意識を持ち、学生においては災害時の対応力を身につけること、教職員においては与えられた役割を理解するとともに実行力を身につけることを目的としました。

参加者は、学生・教職員他約460名。大垣北消防署のご協力のもと、構内放送を合図に授業中の学生が各授業の担当教員の指示にしたがい、一斉に中庭へ避難し、整列しました。その後、大垣北消防署の職員の方に消火器の使い方の説明を受け、代表の学生が実際に消火器を使い、消火訓練を行いました。さらに、煙体験として煙の充満するテントに入り、視界の悪い煙の中では低姿勢を保つことを体験しました。

また、負傷者の発生を想定して、職員による防火班、避難救護班などが学内を巡回し、状況を随時トランシーバーで本部に報告したり、担架で負傷者を搬送するといった実際の救助作業も行いました。



▲消火器の使い方講習と煙体験



# キャンパス 彩々 Campus Saisai

## 第12回岐阜県内外国人留学生 日本語弁論大会で本学学生が1位を含め全員受賞

10月27日(土)、第12回岐阜県内外国人留学生日本語弁論大会が本学において開催されました。テーマは「日本の社会について」。岐阜県内の5大学から代表者15名の発表があり、日本での生活で感じたこと、体験したことを例に、パネルを見せたり、中には着物姿でアピールをする学生など、個性溢れるスピーチが繰り広げられました。

本学からは3名の学生が参加し、いじめやホームレス問題、戦国武将の生き方など、多岐にわたる内容で、大変レベルの高い弁論大会でしたが、そんな中、本学の3名は全員受賞し、チョウ ホウさん(情報メディア学科4年)が1位を獲得、マ チュウセイさん(同学科3年)が5位、チン ショウランさん(経済学科3年)が審査員特別賞を受賞しました。

12年続いてきたこの弁論大会は今年度が最後となりますが、最後を飾るにふさわしい結果を本学の留学生が残せたことに、大学をあげて祝福したいと思います。おめでとうございます!!

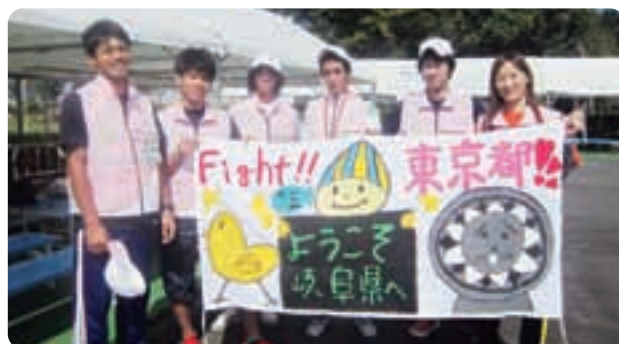


▲左からチョウ ホウさん、加藤由紀子准教授(指導教員)、チン ショウランさん、マ チュウセイさん

## ぎふ清流大会閉幕!学生・教職員がボランティアとして多数参加

10月15日(月)、ぎふ清流大会閉会式の式典ボランティアとして教職員・学生約150名と選手団のサポートボランティアとして約45名が、ボランティアに汗を流しました。当日は暑いぐらいの秋晴れの中、学生たちは笑顔を絶やさず、選手の皆さんと最後のコミュニケーションの時を楽しんでいました。

閉会式会場の外にある、「ミナモ広場」では、たくさんの販売コーナーを選手の方たちと一緒にまわったり、記念撮影をしたり、中には「来年の『スポーツ祭東京』へ応援に行きます!」と約束を交わしている学生もいました。学生・教職員にとって、大変貴重な体験ができたぎふ清流大会でした。



▲手作り応援横断幕を掲げ歓迎

## 北京オリンピック陸上銅メダリストの朝原宣治氏を講師として招聘

10月4日(木)、北京オリンピック陸上銅メダリストの朝原宣治氏を講師としてお招きし、岐阜経済大学学会主催講演会を開催しました。講演テーマは、「目標達成のためのセルフマネジメント」、本学学生、地元の中高校生、一般の方約500名の参加がありました。

朝原氏は、今年度開催されたロンドンオリンピック、北京オリンピックなどの競技場や選手村の様子などを、スライド写真を示しながら紹介。引き続き、中学校や、高校で所属した部活動の練習状況などを振り返り、自ら情報収集や目標設定を行うようになった高校での練習において、セルフマネジメントを考えるようになったことが語られました。

また、現状と目標の差を考え、目標達成のために何が必要

かを考えること、さらに「十分な準備を行い、あとは試合に臨むだけという、自信に満ちた精神状態を作ることによって、実力を引き出すことができる。」と訴え、聴講者の方々も熱心に聞き入っていました。聴講者の方からは、「視線を一般の方にあわせていただけて分かりやすかった。楽しい講演でした。」と感想をいただきました。



▲聴講者に熱心に語る朝原氏

## 岐阜県産業教育振興会 商業教育部会主催の進路研修会を開催

11月8日(木)、岐阜県産業教育振興会商業教育部会の進路研修会が本学において開催され、同会の瀬川隆彦部会長をはじめ、35名の高等学校の先生方が参加しました。

この進路研修会は、岐阜県内の商業科教員の進路指導研修の一環として開催されており、商業教育の充実の一助ともなっています。開会后、瀬川部会長の挨拶に続き、本学谷江幸雄学長(当時)が挨拶し、建学の理念などを紹介。さらに本学高橋勉経済学部長、野松敏雄経営学部長が、両学部の教育の特色を説明しました。

続いて、各参加高等学校からの就職内定等状況報告があり、本学竹内治彦キャリア支援部長(当時)が、岐阜県の高中生や大学生の就職内定状況などについて解説しました。引き続き、本学経営学部安田晶彦准教授を講師として、今後、新学習指導要領に加わる「電子商取引教育」に関する講

演がありました。この後、本学情報センターのスタジオ実習室などを見学していただく時間も用意しました。

最後に、経済学科企業人育成コースの地域企業研究の授業(十六銀行法人営業部主任調査役の村瀬好紀氏を講師としてお招きした授業)を聴講していただきました。

なお、昼食時には、出席された先生方の所属高校出身の在学生も加わり、大学生生活の報告を交えながらの懇親会となり、先生方には教え子の成長を垣間見ることのできるひと時となりました。



▲「電子商取引教育」の講演をする安田准教授

## 3大学連携事業「オープンカレッジin 美濃加茂」地域の将来の担い手が多数参加

本学と岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学の3大学連携協定事業の一環として、「オープンカレッジin美濃加茂」を、11月11日(日)に開催しました。岐阜県内の高校生のために、将来の地域づくりの担い手となることを考えるきっかけをつくりたいとの思いから、県内各地で実施しており、今年度は8月の柳ヶ瀬に続き2回目となります。

はじめに、渡辺直由美濃加茂市長が、将来に向け英語の力を高めること、自分の住んでいる地域がどのような所かを



▲進行役を務める西野さん(左端)

知ること、自ら興味を持って努力することが大切であると語りかけ、高校生も熱心に耳を傾けていました。続いて、竹森正孝

岐阜市立女子短期大学学長から「大学で地域を学ぶということ」をテーマに講演が行われ、地域の課題に向き合い、積極的に取り組むことが重要で、そのためには生活している地域を知ることや、コミュニケーション力を高めることが重要であると述べました。

その後、3大学の在学生・卒業生がメインとなり、自分たちの高校時代の活動や進路決定までの経緯、現在大学で活動していることについて、参加者とコミュニケーションを交えながらのトークセッションが行われました。本学からはマイスター倶楽部に所属する、西野靖浩さん(経済学科4年加茂高校出身)が代表として参加し、トークセッション全体の進行役を務めるとともに、大学生活について熱く語ってくれました。午後は4つのコースから希望の講座を選択し、大学の講義やフィールドワークを体験しました。高校生のみならず、「大学での学び方などを体験できる有意義な一日だった。」等の感想が寄せられました。

# 夢への通過点

# —実習体験をとおして—

## 教育実習報告会



10月23日(火)、教職課程を受講し、教育実習を行った経済・経営両学部学生31名による教育実習報告会を開催しました。

指導教員ごと3教室に分かれ、自分の研究授業についてのレジュメを配布し、1名約15分間の持ち時間で、2~3週間にわたる教育実習で学んだことや経験したことを、同じく教育実習を行った仲間の学生や教職免許取得を目指している下級生を前に発表・報告をしました。

各学生は教育実習での授業や部活動とおして感じた反省点や課題・喜びなど率直な意見を披露しました。報告後は質疑応答が行われ、同じ課題にぶつかった学生から、「どう問題を解決したのか」、「実習先で学んだ教育方法や実習先の先生から教えられたことは?」など様々な質問が飛び交いました。

学生のひとり、「生徒と接する時に、日誌に書かれている生徒と、実際の生徒のギャップに困りました。また、当然のことですが、積極的な生徒や消極的な生徒など様々な生徒がいることにも戸惑いを感じました。しかし慣れていくうちに、まずは生徒を理解することが大切で、意思疎通をしっかりとることが大切だと学びました。」と語りました。他にも、指導案の作成や日誌の添削などで時間がなく、教材研究がおろそかになってしまったという反省点を挙げる学生が多く、教師という職業を目指しながらも、自身の課題を知る実習になったことがうかがえます。

報告が終わった後には、各指導教員から講評の時間があり、一人ひとりにアドバイスをする教員の言葉に熱心に耳を傾けていました。報告会には、来年度教育実習を行う学生も聴講にきており、後輩達にとっても貴重な学びの場となりました。

## 福祉実習報告会



11月21日(水)、本学経済学部臨床福祉コミュニティ学科(2012年4月から公共政策学科に改組)に在籍する介護福祉士や社会福祉士を目指す学生達が、それぞれの資格取得に必要な実習を障がい者支援施設などで行い、そこで体験したこと、学んだことなどについて報告をしました。

実習報告会の目的は、実習成果を互いに発表し合い切磋琢磨して、学びを深めることです。また、次年度以降、実習に行く後輩達にとっても、先輩の経験から学ぶ場にもなっています。

この報告会は毎年開催しており、本年度は介護福祉士を目指す2名、社会福祉士を目指す4名、大垣市上石津町災害ボランティアに参加した2名が報告を行いました。報告者の一人で、介護老人保健施設の寺田ガーデンなどで実習を行った比屋根翔平さん(臨床福祉コミュニティ学科3年 豊見城南高校出身)は、「実践の場に行き、介護とコミュニケーションの結びつきについて肌で実感しました。コミュニケーションの仕方は施設利用者の方の人数だけあり、日によっても違う。利用者の方を想い、目線を合わせて話しかけていくことが必要だとわかりました。これから多くの経験を重ね、たくさんの方から知識を得て判断力・応用力を身につけていきたい。」と述べた他、各報告者がそれぞれの経験を語りました。

なお、報告会の最後には、2012年の9月に台風による土砂崩れによる被害を受けた同町での災害ボランティア活動に参加した学生による発表もあわせて行われました。

### 教職員人事

#### 学内役職者

2012年10月1日就任

- 石原 健一 (学長(経済学部教授))
- 中村 共一 (副学長(経営学部教授))
- 竹内 治彦 (副学長(経営学部教授))
- 岩城 和幸 (キャリア支援部長(経営学部准教授))

#### 配置転換

2012年10月1日付

- 渡辺 正典 (理事長室兼企画広報課長(総務課長))
- 安田 天 (総務課長(企画広報課長))
- 塚原 康之 (理事長室兼企画広報課長(総務課長))
- 大橋 雄一 (企画広報課長(教務課長))
- 濱崎 正人 (入試広報課長(学生課長))
- 高比良 幸司 (学生課長(キャリア支援課長))
- 高木 恭子 (教務課長(入試広報課長))

#### 退職

2012年10月31日付

- 高橋 清生 (スポーツ振興室長)

## 彦根総合高等学校と高大連携教育協定を締結しました

10月18日(木)、彦根総合高等学校と本学は、高大連携教育協定を締結しました。本学は、これまで地域社会を支える人材を高等学校と連携して育成するため、高大連携教育協定締結を進めてきました。今回の彦根総合高等学校との協定締結により、連携協定締結校が8校となりました。調印式では、本学合江幸雄学長(当時)が、「彦根総合高等学校とは情報や福祉の共通する教育分野がある。生活圏も近く、連携が深化して行くことを期待する。」と挨拶。彦根総合高等学校の橋本修校長は「本校では大学進学希望者が増加しており、今回の連携で生徒達の進路の道を広げていきたい。」と今後の抱負を語りました。

